

## 水稻の生育状況と今後の管理対策（臨時第2号）

令和4年7月21日  
新潟県農林水産部

### 〔7月20日現在の県内全域の生育状況〕

- ◎ コシヒカリの生育は、県全体では指標値（生育のめやす）に比べ、草丈は「やや長い」、茎数と葉数の進みは「並」、葉色は「やや淡い」生育状況ですが、草丈と葉色の地域差、ほ場差が大きく、葉色は前回調査からさらに低下しています。
- ◎ 新之助の生育は、指標値に比べ、草丈及び茎数は「並」、葉数の進みは「やや早い」、葉色は「やや淡い」生育状況ですが、草丈、茎数の地域差、ほ場差が大きくなっています。

### 〔気象予報と今後の生育見込み〕

- ◎ 7月21日発表の1か月予報によると、向こう1か月の気温は高く、降水量はほぼ平年並、日照時間は平年並か多い見込みです。
- ◎ コシヒカリの出穂期は県全体の平均で平年より2日早い8月2日頃、新之助では平年より1日早い8月9日頃と見込まれます。
- ◎ 高温が続く見込みであることから、葉色のさらなる低下が懸念されます。

### 〔今後の管理対策のポイント〕

#### コシヒカリ

- ◎ 2回目の穂肥<sup>\*1</sup>（出穂期10日前、1回目穂肥を遅らせた場合は1回目の7日後）は、節間伸長にほとんど影響しません。出穂後の栄養状態を維持するため、確実に施用してください。
- ◎ 全量基肥施肥<sup>\*2</sup>のほ場において、葉色が薄い場合には、出穂期10日前をめやすに追肥を検討してください。
- ◎ 2回目の穂肥施用後も葉色が指標値を下回る場合には、後期栄養を確保するため、追肥が必要です。地域の農業普及指導センターやJA等の技術情報に注意して、3回目穂肥（追加穂肥）を検討してください。
- ◎ 引き続き飽水管理<sup>\*3</sup>を徹底し、根の活力維持を図るとともに、地温の上昇を抑えてください。
- ◎ 斑点米カメムシ類による被害を防止するため、畦畔等の草刈りと出穂後の薬剤防除を徹底しましょう。

\*1 穂肥（ほごえ）：穂が出る前に追肥すること

\*2 全量基肥施肥：全生育期間に必要な肥料成分を、田植え前または田植え時に一括して施す施肥法のこと

\*3 飽水管理（ほうすいかんり）：土壌を湿潤状態に保つこと

### 新 之 助

- ◎ 分施肥体系の1回目穂肥（出穂期21～18日前）は、適正粒数（㎡あたり28,000粒）に誘導するため、地域の農業普及指導センターやJA等の技術情報を参考に、幼穂形成期の草丈と葉色に基づいて適正量の穂肥を確実に施用してください。
- ◎ 全量基肥施肥のほ場で、葉色が薄い場合には、気象やほ場条件等を十分考慮した上で、追肥を検討してください。
- ◎ 葉色が濃いほ場では、一部で葉いもちの発生が見られます。病斑を確認した場合は速やかに薬剤防除を行ってください。

### 早 生 品 種 （参考）

- ◎ まもなく出穂期を迎えるほ場も多く、今が最も「水」を必要とする時期となっています。高温障害を回避するため飽水管理に努め、高品質を目指しましょう。
- ◎ 高温により、カメムシ類の活動が活発になると予想されます。斑点米被害を抑えるため、出穂状況を確認しながら、適期を逃さず防除を実施してください。
- ◎ 多収栽培で肥料を多く施用したほ場では、いもち病が発生しやすいため、葉いもちの発生を確認した場合は、速やかに薬剤防除を行ってください。

### 熱中症予防

- ◎ 蒸し暑い気象が続きます。農作業時は水分補給や休憩時間を十分に確保するなどの熱中症予防と健康管理に十分注意してください。

- ◎ 今後の管理対策発信予定日  
7月26日、8月8日、9月8日

## 〔補足資料〕

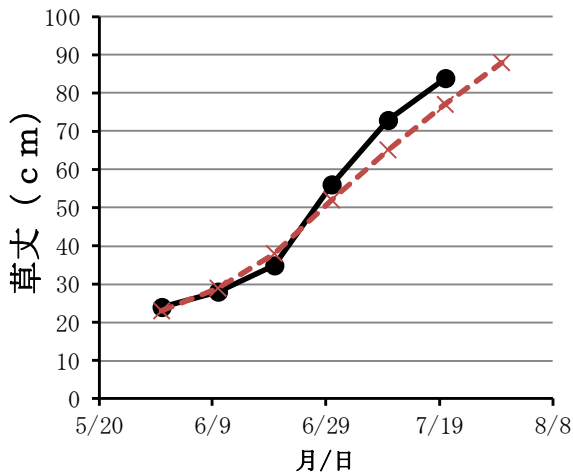
### 1 農業普及指導センター及び作物研究センターの生育状況（7月20日現在）

#### コシヒカリ

○ 指標値に比べ、草丈は「やや長い」、茎数と葉数の進みは「並」、葉色は「やや淡い」状況です。

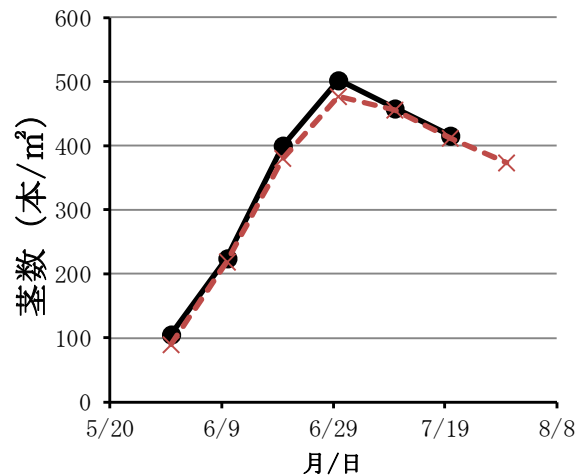
項目	本年値	指標値 (県平均)	指標値 との比較	指標値比・差
草丈	<b>84 cm</b>	77 cm	やや長い	109%
茎数	<b>416 本/m<sup>2</sup></b>	411 本/m <sup>2</sup>	並	101%
葉数	<b>12.3 葉</b>	12.0 葉	並	+0.3 葉
葉色 (SPAD 値)	<b>32.0</b>	33.3	やや淡い	-1.3

注) 県内全域の98生育調査ほデータの平均値



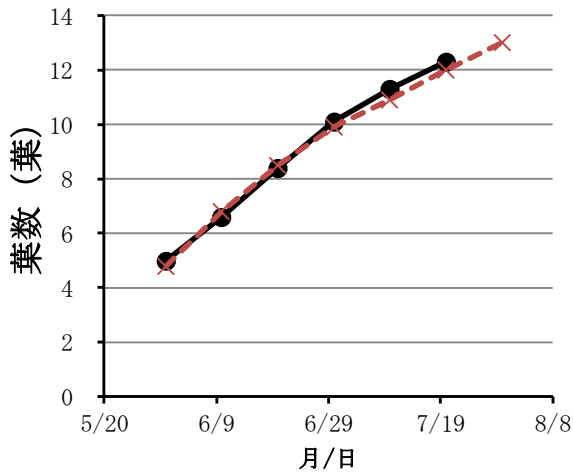
● 本年値    -x- 指標値

草丈の推移  
(県全体)



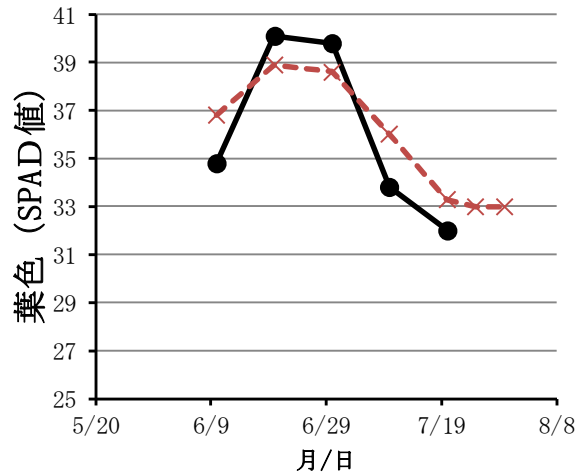
● 本年値    -x- 指標値

茎数の推移  
(県全体)



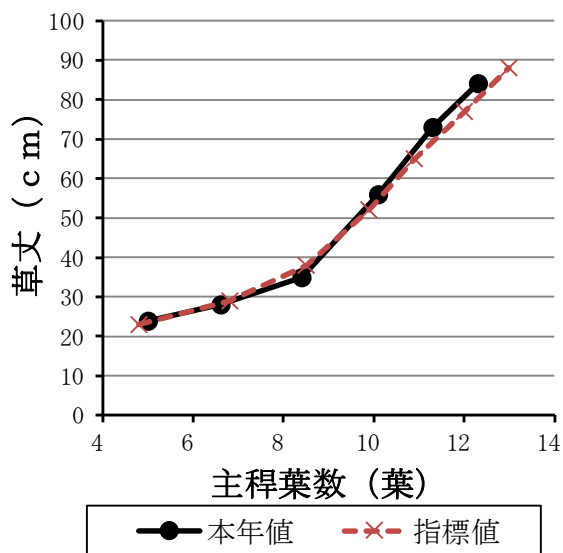
● 本年値    -x- 指標値

葉数の推移  
(県全体)

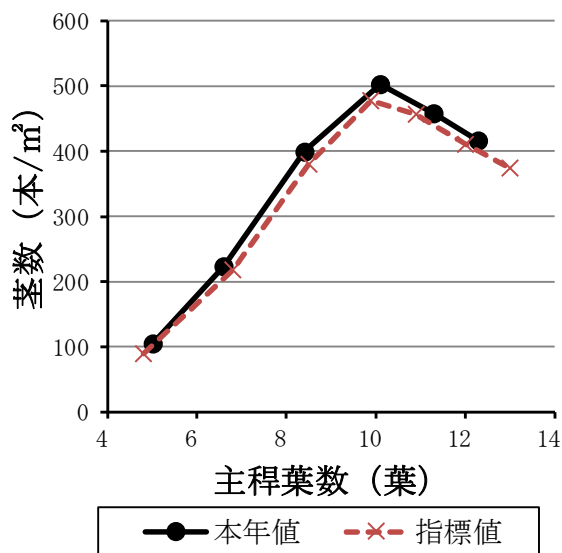


● 本年値    -x- 指標値

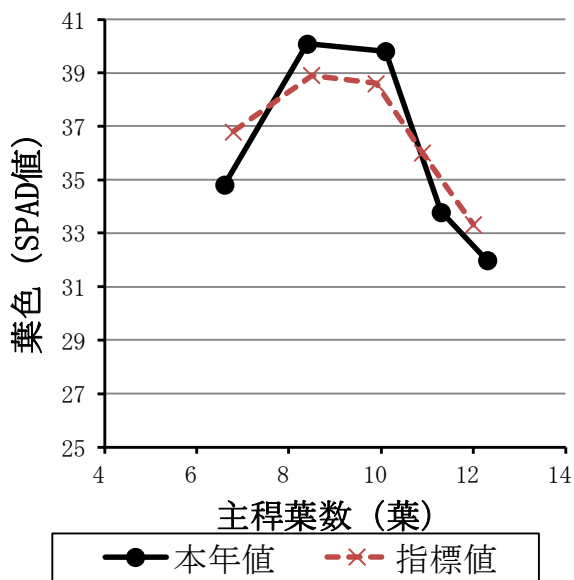
葉色の推移  
(県全体)



葉数と草丈  
(県全体)



葉数と茎数  
(県全体)



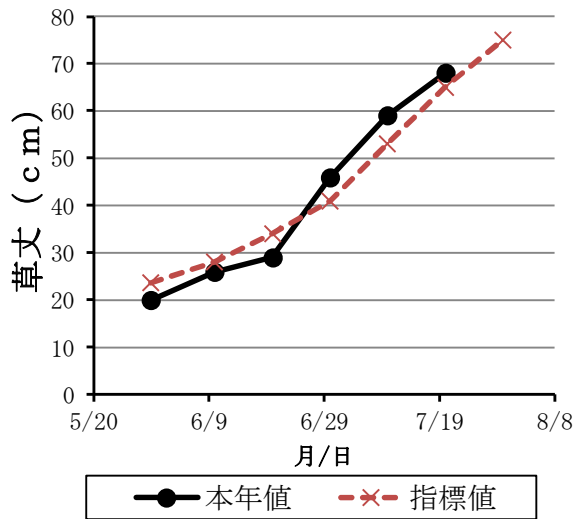
葉数と葉色  
(県全体)

## 新之助

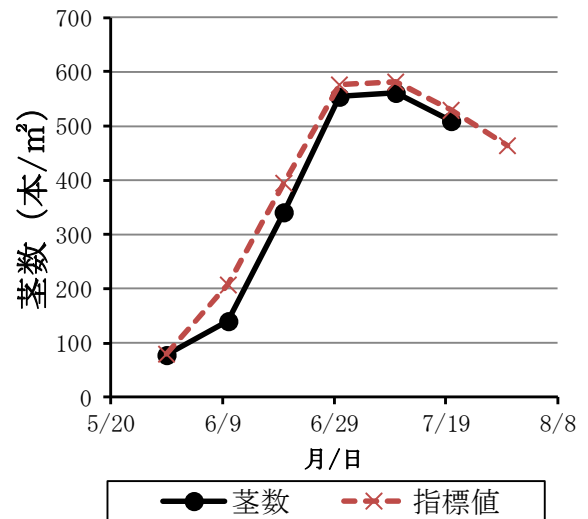
○ 指標値に比べ、草丈及び茎数は「並」、葉数の進みは「やや早い」、葉色は「やや淡い」状況です。

項目	本年値	指標値 (県平均)	指標値 との比較	指標値比・差
草丈	68 cm	65 cm	並	105%
茎数	509 本/m <sup>2</sup>	529 本/m <sup>2</sup>	並	96%
葉数	12.6 葉	12.2 葉	やや早い	+0.4 葉
葉色 (SPAD 値)	33.2	34.2	やや淡い	-1.0

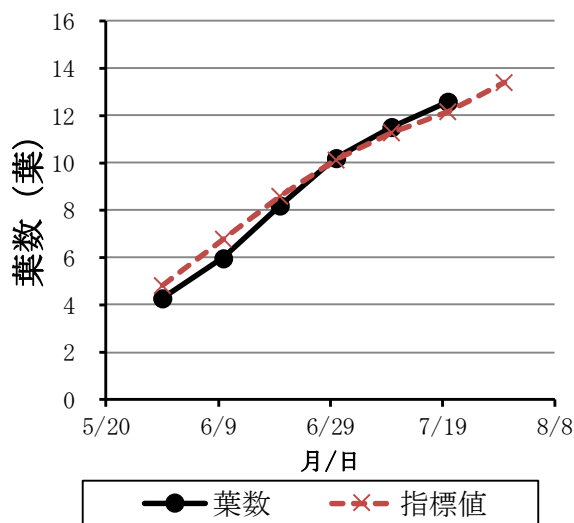
注) 県内全域の15生育調査ほデータの平均値(田植え5月16日、栽植密度16.0株/m<sup>2</sup>)



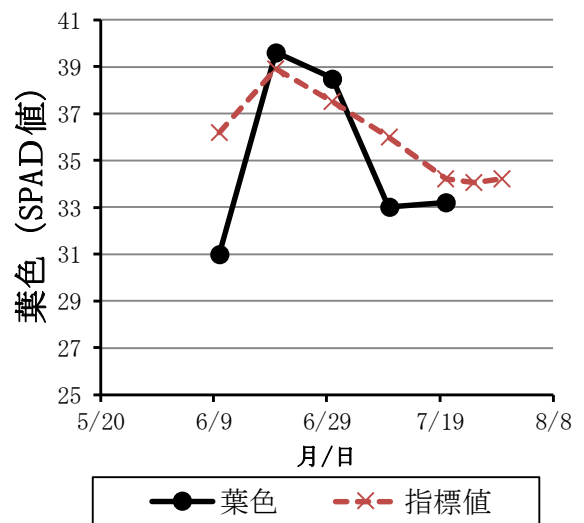
草丈の推移  
(県全体)



茎数の推移  
(県全体)



葉数の推移  
(県全体)



葉色の推移  
(県全体)

## こしいぶき

(参考)

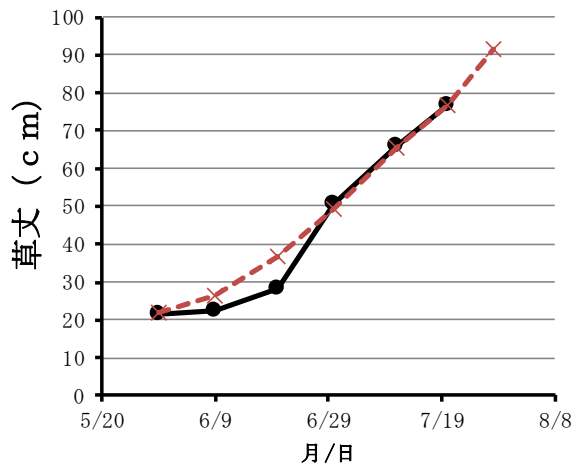
○ 指標値に比べ、草丈と茎数は「並」、葉数は「やや少ない」、葉色は「薄い」状況です。  
止葉が完全展開し、主稈総葉数は例年より少ない。

項目	本年値	指標値	指標値との比較	指標値比・差
草丈	77 cm	77 cm	並	100%
茎数	455 本/m <sup>2</sup>	477 本/m <sup>2</sup>	並	95%
葉数	12.2 葉	12.7 葉	やや少ない	-0.5 葉
葉色 (SPAD 値)	34.1	37.0	薄い	-2.9

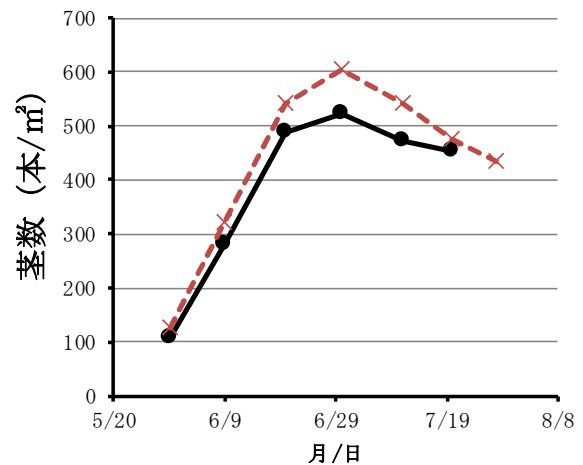
注1) 化学肥料栽培 田植え5月11日、栽植密度22.2株/m<sup>2</sup>、幼穂形成期7月5日(平年差-1)

注2) 基肥窒素成分量 3.0kg/10a、穂肥窒素成分量2.0kg/10a (1.0kg×2回分施:7月5日、7月15日)

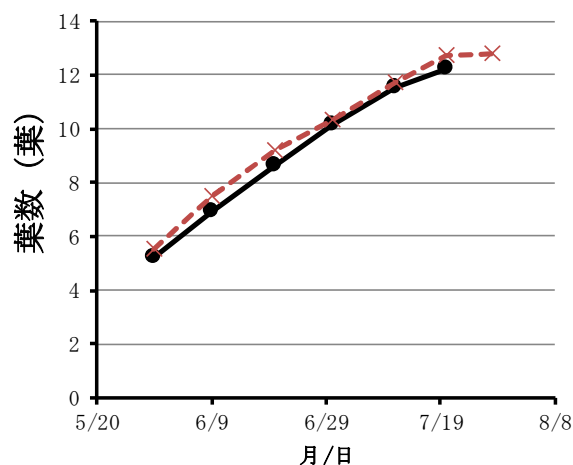
注3) 長岡市長倉町(作物研究センター)の生育調査ほデータ



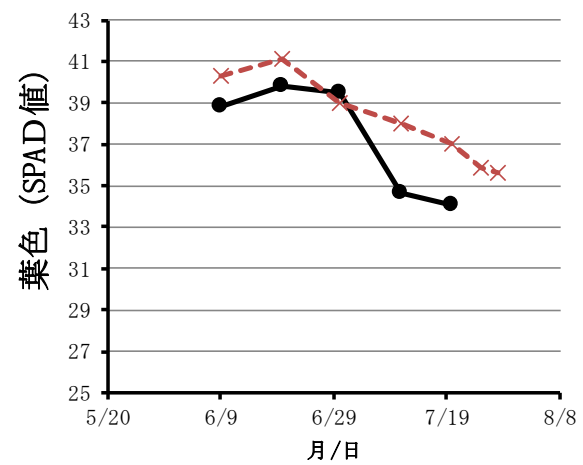
草丈の推移



茎数の推移



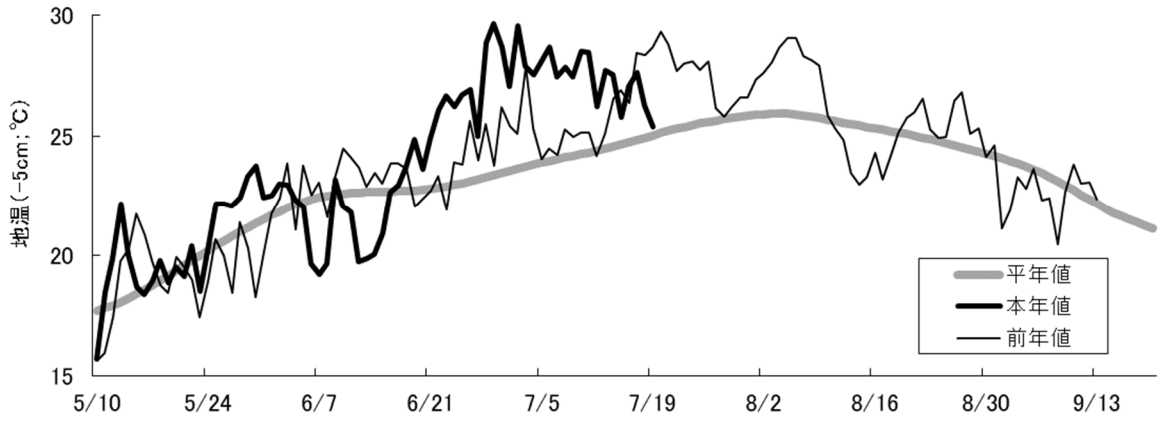
葉数の推移



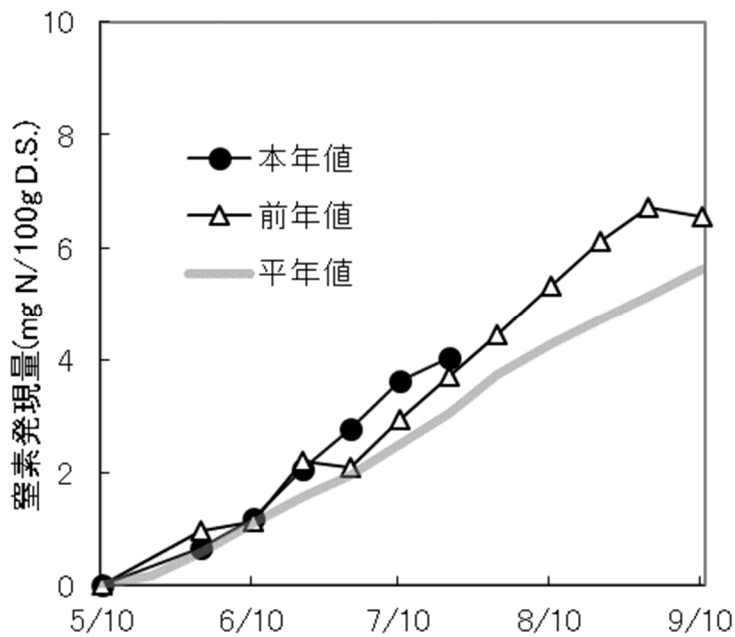
葉色の推移

ちりよく  
2 地力窒素の発現状況

- 7/11~7/19の期間の日平均地温は、平年差+2.2℃で高めでした。地力窒素の発現量は平年より高く推移しました。



水田地温（5cm深）の推移  
(農業総合研究所内ほ場、基盤研究部調査)



地力窒素発現量の推移(7月19日)  
(農業総合研究所内ほ場、基盤研究部調査)  
初期値=0、移植日：5月10日、化学肥料栽培  
基肥窒素成分量：3.5 kg/10a